

産 業

おりもの工業

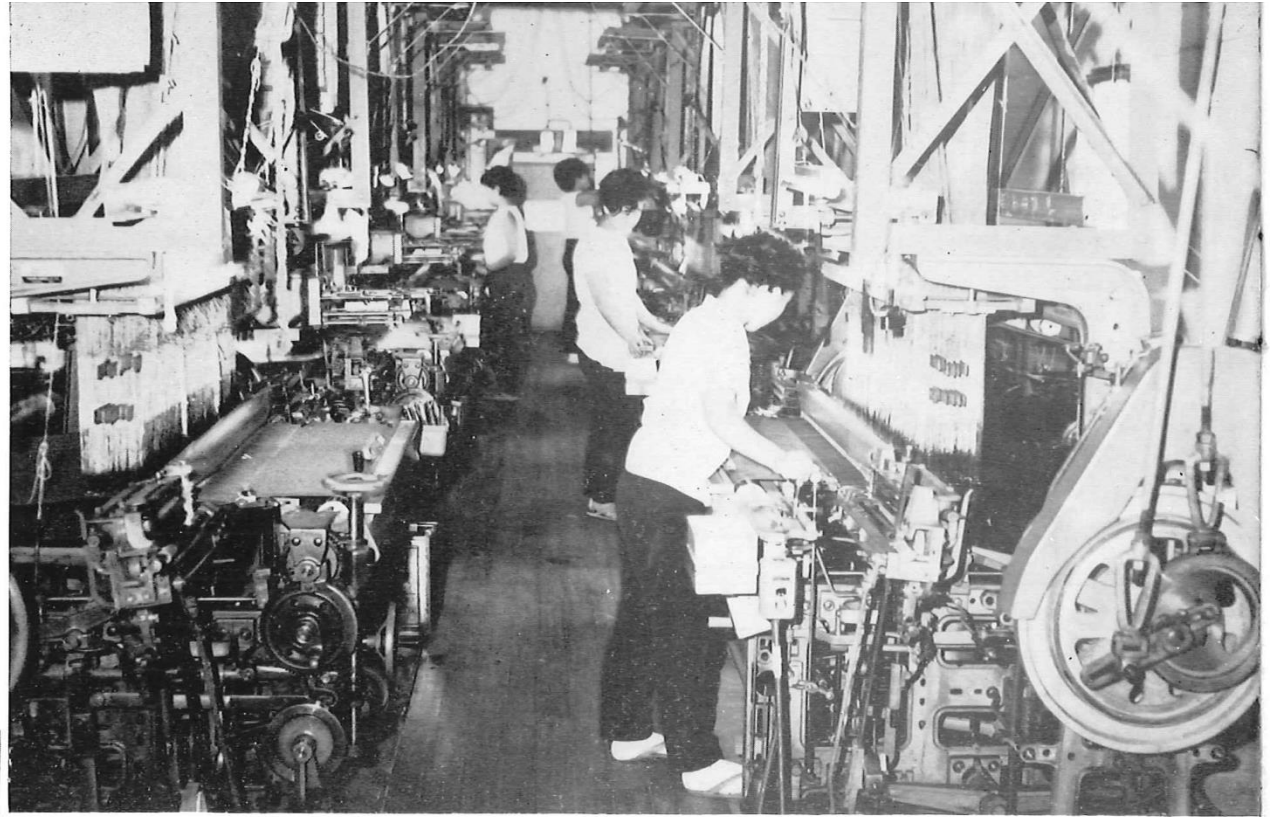
市の主要産業である絹織物製造業は、伝統産業としていま近代化をはかりながら着実な進歩をとげつつある。郡内織物の起源は古く平安朝桓武天皇の延暦13年織部司をこの地におき、アシキヌの朝貢があつたことを文献にみることができる。

室町時代小山田氏が郡内守護職として、市の中心谷村に居城したとき、秩父の根石屋絹の製法を移入して織物の振興をはかったといわれる。

寛永年間になって、郡内縞、白郡内、色郡内、黒八、川和縞などが製産され、羽織裏地、夜具地、着尺などに使われた。

明治維新以後、外来織物の刺戟をうけて綾組織を応用して、綾甲斐絹として市場を賑わしたのが八端織物の初めである。

第一次大戦前までは、手織機によって小巾物を織つてきたが、力織機の発明改良により広巾物となり、夜具地の外風呂敷傘地など染色技術の改良、化学繊維などの使用によって質量ともに画期的な発達をとげつつ、全国唯一の産地としてその名をうたわれている。



織物工場



織物の展示会

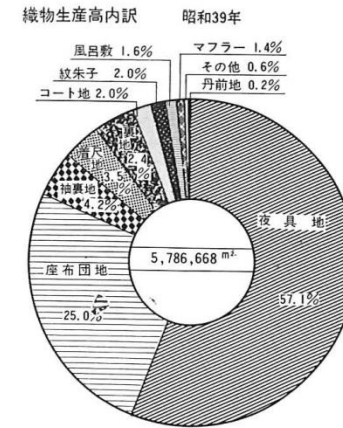
織物品種別生産高及び生産額

(単位数量m² 金額千円)

	項 目			総 数	服 裏 地	袖 裏 地	夜 具 地	座 布 団 地
33 年	生 産	高 額	5 441 233	87 783	168 663	3 666 451	775 958	
			1 851 422	26 263	32 560	1 204 564	184 708	
39 年	生 産	高 額	5 786 668	140 688	242 241	3 305 118	1 445 933	
			2 006 963	40 371	50 628	1 152 854	377 646	
40 年	生 産	高 額	6 233 726	134 296	162 295	4 039 205	1 296 044	
			2 018 795	43 555	35 409	1 221 708	396 990	



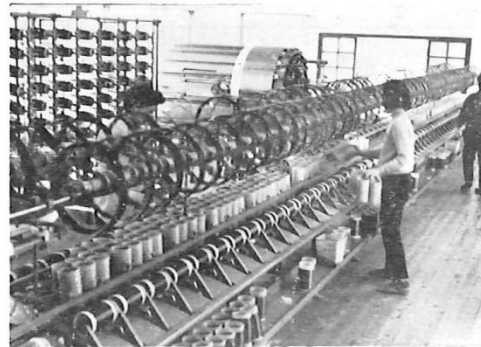
工場数 916
力織機台数 2,495



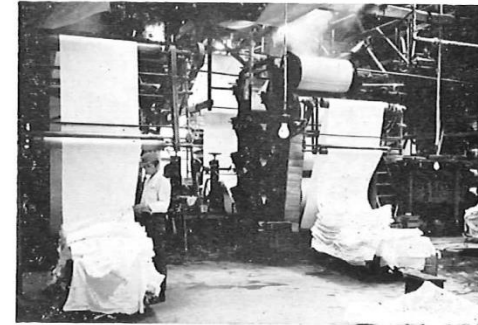
←昔はこのように手織機で織った



染色工場



糸の整理工場



布の整理工場

風呂敷	コート地	紋朱子	丹前地	着尺地	マフラー	その他
21 788	68 722	184 660	102 735	298 638	48 672	20 158
7 019	50 137	62 987	24 482	225 076	21 898	11 728
93 414	114 831	114 758	8 813	205 304	83 713	30 855
44 039	68 978	45 408	2 285	169 941	37 671	17 142
128 138	96 970	63 755	—	219 446	75 339	18 238
35 503	50 796	24 734	—	168 324	32 558	9 218